

専門家のアドバイスを希望する方は、以下の事項を記載しお送りください。

F A X : 03-6811-7206

E-mail : jimukyoku@jsurp.jp

①対象の地区

②まちづくりの内容

③相談したいこと

お名前

連絡先（電話番号・メールアドレス）

日本都市計画家協会は、まちづくりの専門家として、学識者、コンサルタント、自治体など、多様なメンバーにより構成される認定NPO法人です。全国のまちづくりの発展に寄与すべく、震災復興活動やまちづくりセミナー、出前講座など「公益性」の高い活動を展開しています。

活動の一環として、まちづくり相談を実施しています。お気軽に相談ください。

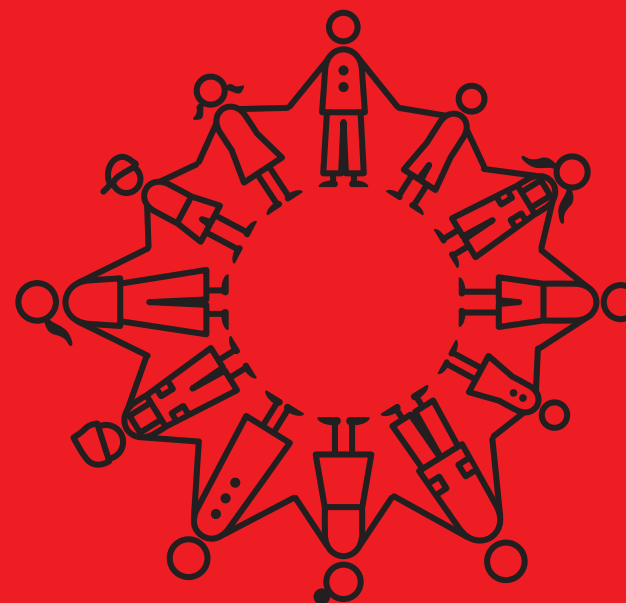
まちづくり相談ホームページ <https://www.jsurp.jp/まちづくり相談/>

E-mail jimukyoku@jsurp.jp



vol.10

こどもがつなげる まちづくり





子どもとまち

みなさんは、子どもの頃にどんな遊びをしていましたか？

友だちと一緒に公園で遊んだり、学校の帰り道に草花をつんで帰ったり、お祭りに参加したり、いろいろな思い出があると思います。その記憶の多くが地域の中で起きていたのではないのでしょうか。

東京都が行った小中高生を対象に実施された調査(東京都子供の生活実態調査報告書)によると、昨今、多くの子どもは放課後、家の中や管理された施設の中で限られた人と過ごし、外遊びをする子どもの数が大幅に減少しているそうです。さらにコロナ禍においては、さまざまな人と出会うはずの地域の催しなども相次いで中止されました。

このように、本来多くの経験をできるはずの地域と子どもの接点が薄くなってしまっており、子どもや親の孤立化が加速している現状があります。

子どもがつなげるまちづくり

日本では現在、出生率の低下により若年人口が減少する少子社会となっており、40年後には、19歳以下の割合は14%まで減少すると言われています。そこで今、地域における子育てのしやすさ、子どもを取り巻く地域環境のありかたが見直されています。

まちなか空間、地域コミュニティ、教育機関、居場所づくりなど地域の中で子どもに関係する要素は多岐にわたります。

今回、「まちづくりNOTE」では、「子ども」をまちの主体として位置づけ、地域において子どもがしやすい、すごしやすい持続的なまちづくりに向けた視点や様々な事例をまとめました。自分たちでも実践してみたいという方々を対象に、取り組みの進め方・ポイントを解説します。



子どもとまちづくりの視点

子どもが育つのは日々の暮らしの中です。多くの時間を過ごす地域の中に子どもたち自身が楽しいと思える場所や機会、(親世代も含めた)コミュニティなど安心感を得られる環境の存在は、まちへの愛着の醸成へとつながります。

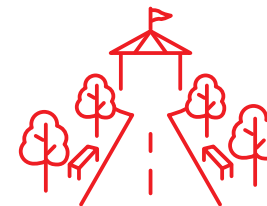
そのためにはまず、子どもを主役に捉え、一つ一つの子どもの意見に耳を傾けながら彼らが「楽しい!」と思える地域づくりを一緒に進めていきましょう。子ども自身が地域の中で家族以外の人と関わりながら育つばかりでなく、まわりの大人もコミュニティも一緒に育ち、大人になってもそのまま暮らし続けたい、または帰ってきたいと思えるまちとして選ばれ続け、将来的な持続性が見えてくるのではないのでしょうか。



取り組みのテーマ

公共空間

公園や道路、公共施設など多くの人が使う公共空間は、誰もが安全に、安心して過ごせる場所であることが重要です。暗闇や死角をなくす、ゴミをなくす、設備の安全性を保つなど、誰にとっても心地よい空間づくりが重要です。



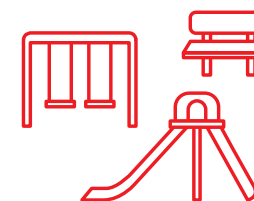
子育て世代のコミュニティ形成

これまで関わりのなかった人と、子どもをきっかけとして知り合える機会は数多くあります。地域のお祭りや清掃活動など地域への活動への参加をきっかけに親世代のコミュニティを活発化することは、まちづくりの担い手の育成・拡大につながります。



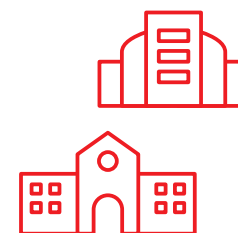
遊び場づくり

子どもにとってはまちの様々な場所が遊び場になります。過剰な管理で禁止事項ばかりの場所にするのではなく、自由な遊びを通じて子どもの創造性や責任感を育めるような環境づくりを目指しましょう。遊び場は、地域と子どもがつながる接点としてつくっていくことが求められます。



教育機関との連携

子どもとのまちづくりを考えていく上では、学校や保育園・幼稚園など教育機関との連携は不可欠です。地域も学びの場として、学習や発表のフィールドなどとして活用してもらうことで、地域と教育機関が互いに顔の見える関係性をつくることができます



世界の取り組み

GATEWAY DISCOVERY PARK /
PLACE @アメリカ合衆国オレゴン州ポートランド

広場が中心に配置され子どもの様子を見守りながら大人も過ごす©PLACE



放課後の学校や授業に出向き主役となる子どもとの対話を重ねた©PLACE



地域コミュニティの中心となる公園をつくることを目的に計画がスタート。計画段階より「コミュニティエンゲージメント」という手法を採用。保育園や放課後の学校へ出向いたりイベントを行い、地域の人や子どもの声を丁寧に聞きながら、意見を集約しコンセプトや空間デザインをまとめました。

中心の広場の周りには、子どもたちの年齢や能力、発達段階にかかわらず、みんなが遊べるインクルーシブプレイグラウンドが配置されました。現在、休日になると公園の横にはキッチンカーが並び、大人は食事をしながら走り回る子どもたちを眺められる空間になっています。今では、地域の大きなイベントから家族の小さな記念日イベントまでが行われ、地域の人々に愛される場所になっています。

日本各地の取り組み

カミハチキテル@広島市、
公共空地の活用@柏市ほか



ワークショップ会場の一角に設けられたキッズスペース



社会実験で駅前メインストリートに出現したあそび空間

道路や公園といった公共空間などを活用して、子どもも大人も楽しめるイベントや取り組みが増えてきています。千葉県柏市では、柏のストリートを通じてより良いコミュニティが育つことを目的とし、「あそび(play)」をテーマとした道路空間の活用を定期的実施しています。広島県広島市の「カミハチキテル」では、社会実験の一環として、将来のまちづくりに向けたワークショップを市有地の暫定利用地の屋外で行いました。会場の一角には、ワークショップの間に子どもが遊べるキッズコーナーとスタッフを配置するなど、子連れでも気軽に参加できるような工夫を行っていました。あえて子育て世代とまちづくりの接点をつくることで、まちへの関心を高めようとしています。



さあ、まちづくりをはじめよう!

STEP

1

子どもとまちの特性を把握!

子どもの目からまちはどんなふう映っているのか、一緒に特性を理解することが第一歩です。まちあるきや意見交換を行いながら、子どもの目から見たまちの現状を把握しましょう。できるだけリラックスできる雰囲気づくりがポイントです。



STEP

2

子どもが思い切りあそべる空間をまちのなかにつくる!

安全面に配慮し、子どもが安心して思い切りあそべる空間をまちの中につくってみましょう。まずはイベントのタイミングや仮設などでもかまいません。まちの中に来てもらうことが大切です。



屋外でも靴を脱いで子どもがくつろげる場所を用意

子どもがつなげるまちづくりの手法

子どもがまちに繰り出すには、準備はもちろんのこと、大人も一緒になって楽しめる企画の“発想力”が大切です。

STEP

3

まちなかを学びのフィールドにする!

まちの中には大人や社会との接点が多くあります。小学校の総合学習の時間や、サークルなど、まちのなかで活動してもらうことで、子どもにとっても学びの場とすることができます。



STEP

4

面白い大人を巻き込む! 親も楽しめるチームをつくる!

子どもと一緒にまちづくりを進めるためには、多くの大人の協力が不可欠です。実際に関わっている大人が楽しそうに活動していると、子どもも安心して活動に参加することができます。大人も楽しめるチームをつくりましょう。



子どもと一緒に大人も楽しめる空間づくり

子どもサンカク広場 千葉県柏市



園児が楽しく安全に遊べるよう工夫されたデザイン遊具

遊具の検討には保育士とのワークショップを実施



柏アーバンデザインセンター(UDC2)では、「融合都市」を目標に掲げ、シニア層、子育て層、若者層など多様な世代を受け入れられる都市を目指して活動しています。

柏駅周辺は大規模なマンション開発が進んだことにより子どもも増加し、保育園が複数できました。しかし駅前という立地から園庭や

公園など十分なオープンスペース(遊び場)を確保することが難しい状況でした。そこで、まちづくりに理解のある土地所有者に協力いただき、駐車場を園庭のない保育園のサテライト園庭として活用を開始。検討にあたり、保育士と建築家を交えオリジナル遊具のデザインワークショップを実施しました。今では、鍵の施錠管理などを含め、複数の保育園の共同で運営されています。



柏アーバンデザインセンターの安藤哲也さん
写真提供：P9すべてUDC2

みちくさくらす 東京都新宿区

元々はクリーニング店舗だった2階建ての建物を「暮らしづくり複合施設」としてリノベーション。1階は子育て世代を中心とした地域の人々が美味しいご飯を食べたり飲食スペースや、夏休み期間中に子ども向けのお弁当の販売などを行うキッチンスペース、2階の多目的教室スペースは、放課後に学校帰り子どもたちが集まり勉強をしたり、お絵描き教室やワークショップなどをする場所になっています。きっかけは、主宰の並木さんがご自身の出産・子育ての経験を経て、少しでも子育てを楽し



みちくさくらす主宰の並木優さん、義和さんご夫妻

くしたい、地域の同じ思いの人たちと繋がりたいと考えるようになったこと。今では、大学のボランティアなどの協力を得ながら地域のコミュニティ拠点として運営されています。



左上/建物外観 左下/店内は普段から地域の人で賑わっている 右/2階では教室やワークショップなどを定期的開催
写真提供：P10すべて、みちくさくらす